

令和7年度協働パイロット事業新規事業一次審査 会議録

開催日時 令和7年5月16日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

出席者 委員 川村 美智、弓削 幸恵、千野 和子、石川 賀久
事務局 渡井 亮祐、前川 里奈

会議内容

1 開会 <事務局>

2 委嘱状交付

3 市民自治推進課長挨拶 <石川 賀久>

4 委員紹介

5 委員長・副委員長選任

委員による互選の結果、川村委員が委員長に選任された。

委員長である川村委員の指名により、弓削委員が副委員長に選任された。

6 議事・審査

(1) 新規提案事業に関する事業概要説明等

提案事業（新規提案6事業及び継続提案3事業）について、事務局から事業概要等の説明を行った。

(2) 新規提案事業に関する審査

ア 静岡市こども食支援ネットワーク構築・運用事業 【おかえり hug 事務局】

(川村委員)

協働担当課からのコメントにもあるように、市内にどれくらいの困難家庭があるのかという根拠が定まっていないところが気になった。

また、事業提案で中学校区43ヶ所の食拠点作りと書いてあるが、本当に実現できるのか、その辺の事業計画の立て方が粗いように感じる。

(石川委員)

食料寄付の受け入れから配布までの仕組みづくりにおける運用の部分が、この提案金額でやり切れるのか不安。

(川村委員)

ネットワーク構築の難しさを見ながら感じていて、特にPTAとの連携を図るとなっているが、学校ごとにPTAがすごく活発なところと、仕方なく入ってるみたいなところがあるので、その温度差も求められるのではないかと思います。

(弓削委員)

既存の人たちが繋がっていくというのが第1前提で、その人たちがいない場所で新たな人たちの支援をするのであれば道理としてはわかるが、そういった視点もない中で、ざっくりと自分たちでやっていくという場合には、事業計画の立て方が荒いと言われてしまう。具体性がなく、結局誰とどうやるのか、自分たちでやる動きが見えないことで協働担当課の評価低くなっているのではないかと。

(川村委員)

例えば、今年度は事前の既存団体の調査や連携づくりを行い、静岡市内における食料配布のマップを作る等して、来年度にそれを基に提案していくのがいいのではないかと。

イ きみの居場所プロジェクト【静岡の未来を拓く会】

(千野委員)

事業スケジュールがあるが、具体的に何をするのがよくわからない。高校生が入ってきて、何をどうやってするのか、どこにお金がつくのか。

(川村委員)

高校生を入れることで、不登校の子どもたちが来てくれるのか。また、それを高校生に任せてしまっているのか。

(事務局)

団体の考えとしては、不登校になってしまった場合は市の方で支援がある。しかし、少しグラデーションがあって来れる日もあるけど、ちょっと行けない日もあるみたいな子どもや、もう少し手前の段階でちょっとモヤモヤを抱えている子どもに対して、相談する相手がいないのであればこういった場が解決の一助になってくれるのではないかという思いがある。

(弓削委員)

そうすると、放課後子ども教室が最適な場所とは少し思えないように感じる。対象としている子どもは早く学校から帰りたいのでは。学校でない居場所に関われるのであればいいと思うが、学校に行きにくい印象があるお子さんにとってはどうなのかなと疑問に思う。

(千野委員)

高校生に頼むとなると、高校生対象にも育成の講座等をしなければならないと思う。ボランティアとしてはすぐ集まるかもしれないが、少し無責任なところや、

ただ1回行けばいいといった考えの人も意外と多い。そういった部分で、不登校の子をかえって傷つけたりするようなことになってはいけないと思う。

(川村委員)

問題点としては、放課後子ども教室が適切なのか、もし高校生に主役になってもらおうとすれば、研修が必要になるとか、いくつか課題あるという感じ。ふれあいイベントも何をやるかがわからない。

(事務局)

放課後子ども教室での活動は特定の一つの小学校を対象にということになるが、ふれあいイベントに関しては、全市的にもう少し大きな範囲で子どもたちを集めて高校生と一緒に楽しむイベントをやりたいというような提案。

(石川委員)

城北高校の3年生徒の参加が想定されるとのことだが、いかに多く高校生が継続して、ボランティアとして関わる仕組みを構築できるかというのを聞いてみたい。

(川村委員)

部活動でボランティア部みたいなのがあれば卒業してても繋がり、この事業を継続していこうみたいなものができるかもしれない。

(弓削委員)

イベント募集をかけて、高校生がどれぐらい集まるか、その集まった子たちでできるのか。自分が今、関わっている静岡大学のボランティアサークルは仕組みがあり、大谷小学校に月に1回行くといった活動を定期的にやっていると聞く。どこかで0から1にすることは必要と思うが、本当に高校生が主体的にやるくらいの人数が集まってできるのか、実現的な部分が気になる。

ウ フットボール映画祭【静岡フットボール映画祭実行委員会】

(石川委員)

事務局の中に結構テレビ局の方がいるが、その企画力があまりNPOの先駆性とか創造性に届いてないように感じる。

(千野委員)

市の限られた予算を使ってやらなくても十分採算取れそうな気がする。

(弓削委員)

市と協働する理由に「このイベントの格付けができます」と書いてあるところが、自分たちのイベントのために市の名前が欲しいというように感じ取れてしまい、協働感が伝わらない。協働担当課の協働性の評価が低いという理由の1つなのかなとも思う。

本来は、「スポーツ×○○」という提案をして欲しいということであったが、そ

の部分が伺えない。映画を見て楽しかった、で終わるのではなく、スポーツと各分野を連携させてスポーツをする人を増やせるような提案という部分で、協働担当課が期待していたものとは違ったのかなと思う。

エ 「まちなか保健室」開設事業【特定非営利活動法人 Safety First 静岡】

(川村委員)

この事業に関わる方たちが皆、専門的な知識を持っていること、定期的に開催することによって様々な若年女性たちの悩みが学校やそういったところとは関係ない場所でサポートしようというのが、実現したらすごくいいなと思う。

(千野委員)

女性だけというのをもう少し広げられないか。男女性別問わずの被害を抱える人が多いため、女性限定にせず、男性も行ける保健室にしたほうがいいような気がした。パルシェの会議室を利用するという点で、場所代が高い点が気になる。

(事務局)

この提案は、男女共同参画・人権政策課からの課題テーマに応募してもらっている。協働担当課の意向として、若年層の困難女性がどこにいるか明確に分かっていないものの、繁華街等の場所に相談できる場があったら入りやすいのではないかと、という点で、今回パルシェという場所の会場選定に繋がっていると思われる。

(弓削委員)

困難を抱える若年女性のニーズを拾える場所がどこにあるのか、それをまず整理するところから具体的にやることも良いのではないかと。どこで相談場所を設けることが一番ニーズに合っているのか、調査は必要だと感じる。

(石川委員)

月2回の開催で、フラッと気軽に入れる場所になるかどうかは気になるところ。

(弓削委員)

今の提案は、協働担当課が課題テーマの現状として挙げている、行政機関による支援の窓口には当事者からのアプローチがあることを前提としたスタイルが多いという部分と同じような印象があるため、SNSや夜間の見回りなど有効的なアウトリーチの部分を少し盛り込めるといいと思う。

パイロット事業という点で、これまでと違うチャレンジを団体としてもやってみるという内容が入っているといいのかなと、少し大変だと思うが、現場に出てみることも大切なのではと感じる。

(千野委員)

SNSで相談する機会を設けてから、窓口で相談するという流れのほうがいいのかもかもしれない。

オ 聴き合い、受け止め合い、伝え合う。垣根を越えた対話で、市民がつながり続ける事業【つながりあいず】

(川村委員)

以前、市で実施していたライフデザイン事業を受けた方たちが上手に育っていくという狙いがあるとすれば、活動としてはあるのかなというイメージ。

(弓削委員)

参加者の誰がどこに孤立しているか、どういう人をイメージしているのか。協働担当課に広報を協力してもらおうとは書いてあるが、話を聞いてほしいと願う人や不安を考えている人がチラシを置いてあったとして参加するようになるのか、事業として成立するのかといった疑問はある。企画提案書だけではわからない部分が多く、実際に聞いてみたいと思う。

(千野委員)

事業は全6回あり、延べ100名以上を目標設定しているが、基本的に継続して参加をしてもらうのか、1回単発の参加でもいいのか。全部参加しないと成果が出ないかなと感じる。

(事務局)

前提は継続して6回受けてもらうことだが、途中参加という形でも参加はできるように設計はしている。

(川村委員)

提案書だけを読むと、ライフデザイン事業の修了生たちがその後も集まれる場所をつくろうというような要素が多く、そこからさらに人が繋がっていくという部分は見えにくい。

カ 介護保険では担えない生活支援を行う地域住民への支援およびバックアップを行うための取り組み【一般社団法人まんまる】

(千野委員)

介護保険の制度運営や持続性には課題があると言われており、担い手が減少する中地域で助けなければいけないという事例もある。その地域で主となって動いている方は、自治会長でもあり、福祉関係の事業もやっている方で、それらを全部連携させて仕組みを作ってうまくやろうとしているが、この仕組みを作るまでがものすごく大変である。今回提案書を見てみると、仕組みづくりとなっているが、提案の中身は人材育成なのかなと感じる。とても大切なことをやろうとしているが、目的と内容が合っていないように思う。

(石川委員)

モデル地区の募集からというよりは、ここの地域だからできる予定があるとか見当があるといい。

(弓削委員)

モデル地区をやりたいというところが出てくるのか疑問である。人頼みではなく、例えば、普及しているS型デイサービス等を足掛かりにして、具体的にモデル地区になりそうなところを探してみるところから必要なのではないか。

協働担当課である地域包括ケア推進課の評価では、市の事業として実施している生活支援体制整備事業と類似しているというコメントがある部分を見ると、あえて協働パイロットとしてやるというのは少し難しいように感じる。

(川村委員)

大きな事業を考えているように見られるが、少し絞り込んでもらい、まずはあたりをつけた地域で実働してみて、その結果、もう少しこういった改善ができそうだから市と協働して実施していきたいというような提案をしてもらったほうがいいと感じる。

(3) 審査委員会

ア 審査に関する説明<事務局>

イ 審査

(1)～(2)の議事を受け、以下の団体を一次審査選定団体として審査会にて了承された。

- ・静岡の未来を拓く会
- ・特定非営利法人 Safety First 静岡
- ・つながりあいず

(4) 継続提案事業に関する審査

ア 新たな活動が生まれる大谷・小鹿周辺地区協創プラットフォームの構築

【特定非営利活動法人ESUNE】

(弓削委員)

コミュニティリーダー20人と記載があるが、誰がなったのかわからない。

(千野委員)

発掘される人材はどういった方で、属性は何か。

(弓削委員)

具体的に今年度は発掘したリーダーが活躍できる場を作っていくのかと思ったが、勉強会しか予定になかった。フォーラムよりも、実践の場が多く必要だと思う。

地域メディアの立ち上げや地域商店の一角を借りて拠点づくりが立ち上がると書いてあるが、その辺の費用は計上しなくていいのか。メディアを立ち上げるとなるとWi-Fi等が経費として計上している場合もある。

(事務局)

昨年度作成したガイドブックにある山田サイクルさんという自転車屋さんのスペースを一部無償でお借りできるようなお話を伺っていると聞いている。そこを使ってやっていくかどうかまでは聞いていないが、イメージとしては、あまりお金がかからない形で実施していくイメージだと思っている。

(川村委員)

先ほど弓削委員がおっしゃったように、リーダーたちが活躍できる場があるかどうかが気になる。

(弓削委員)

後は地元自治会も結構しっかりしている地域なので、そことの連携がとても大事だと思う。それがちょっと見えにくいので、既存団体ではなくという言葉はあるが、既存団体も含めて新しいまち作りだと思う。ガイドブックの配布先にも自治会が入っていなかった。事業として立派なものを成果として作り上げているので、自治会にも配布すればいいと思う。

イ 静岡グリーンラボ ～みどりを活かす人材の仕組みづくり～

【一般社団法人グリーンパークあさはた】

(川村委員)

非常に安定した運営だなという印象。

(弓削委員)

担当課の評価もかなりしっかりしていて、今後予算措置も含めて検討すると書いてある点からも支援し甲斐があるように感じる。

(川村委員)

グリーンパークあさはたという一つの場所を有効に活用して、人材を育てていくというのは、今年度が一つのカギかなという感じがする。

ウ 放任竹林を活用したレッパーくんのもぐもぐサポートプロジェクト

【特定非営利活動法人BASSplus】

(川村委員)

発想が面白い提案であった。1年間の取組を通じて、レッサーパンダが好む竹の質に様々な種類があることがわかったことなども興味深かった。さらに動物園とも連携し、良い協力関係を築いていたことが印象的だった。参加団体も多く集まり、活動の支持を得ていたこともよかったと思う。

(千野委員)

予算の部分が、結構ハードな作業をするわりに金額としては低いかなと思った。

(弓削委員)

竹林整備団体のボランティアの方たちは保険などに入っているのか。

(事務局)

提案自体は去年と同じで、動物園と竹林整備団体とのマッチングを目的としており、竹を切る部分に関しては提案外であるため、協働パイロット事業の中で保険に関する予算は計上されていない。

(千野委員)

団体から提供される竹は、動物園が購入してくれているのか。

(事務局)

最終的には、そういった仕組みの構築を目指しているが、現在はまだ至っていない。

(千野委員)

レッサーパンダの餌となる竹を京都で購入しているが、それが非常に高価であると聞いた。レッサーパンダもすごくグルメだなと。

(事務局)

夏は、日本平動物園では竹が調達できない期間になるようで、その間は京都から竹を買っていると聞いている。今回1年やってみて、想定していたよりもレッサーパンダの餌となる竹の範囲が狭いことがわかった。その部分については、竹を伐採するときの工夫で何とかなる部分もあれば、そもそも生えている竹自体の問題で何とかならない部分もある。伐採時に工夫すれば何とかなる部分を、もう少し参加団体に啓発していけたらというようなことが来年度の課題として上がっている。

(川村委員)

工夫しながら一生懸命やってくれているので、ぜひ継続してもらいたい。

7 事務連絡

8 閉会

以上、この会議録が正確であることを証します

署名人

川村 美智